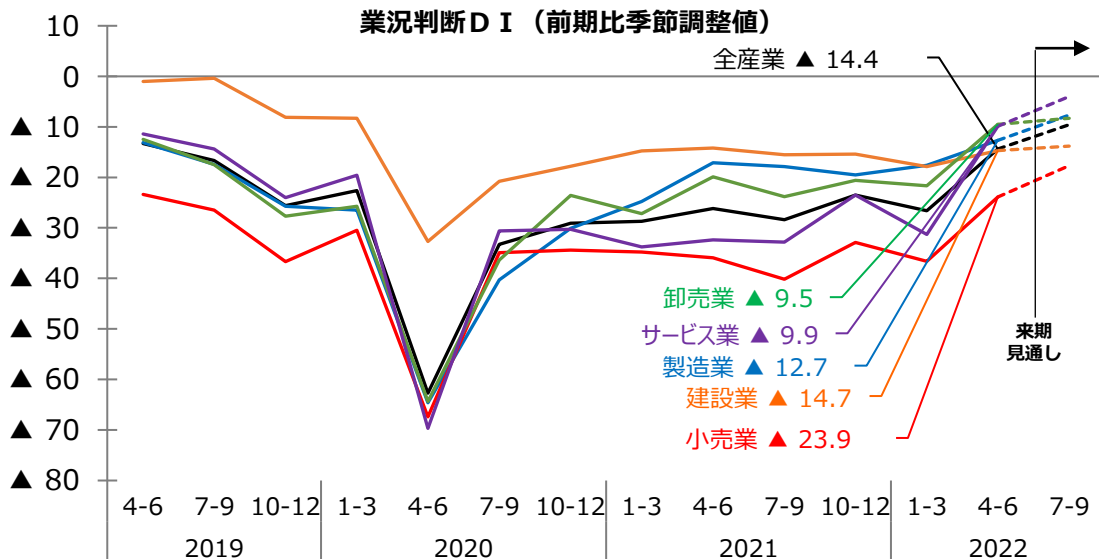


第168回中小企業景況調査（2022年4-6月期）のポイント

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇

全産業の「業況判断DI（前期比季節調整値）」は、前期（2022年1-3月期）より12.2ポイント増の▲14.4と2期ぶりに上昇し、来期（2022年7-9月期）は、4.8ポイント増と上昇する見通しとなった。産業別では、サービス業(前期差+21.4)、小売業(同+12.7)、卸売業(同+12.2)、製造業(同+4.9)、建設業(同+3.2)のすべての産業で上昇した。

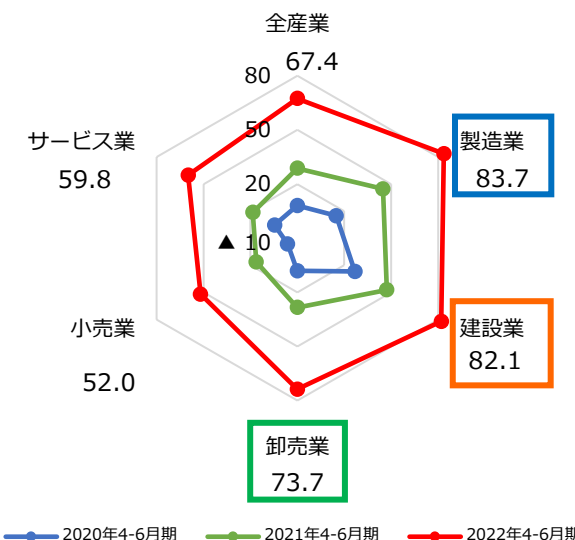


※前期(2022年1-3月期)と比べて「好転」「不変」「悪化」で回答。

原材料・商品仕入単価DIは、製造業、建設業、卸売業で過去最高値を記録

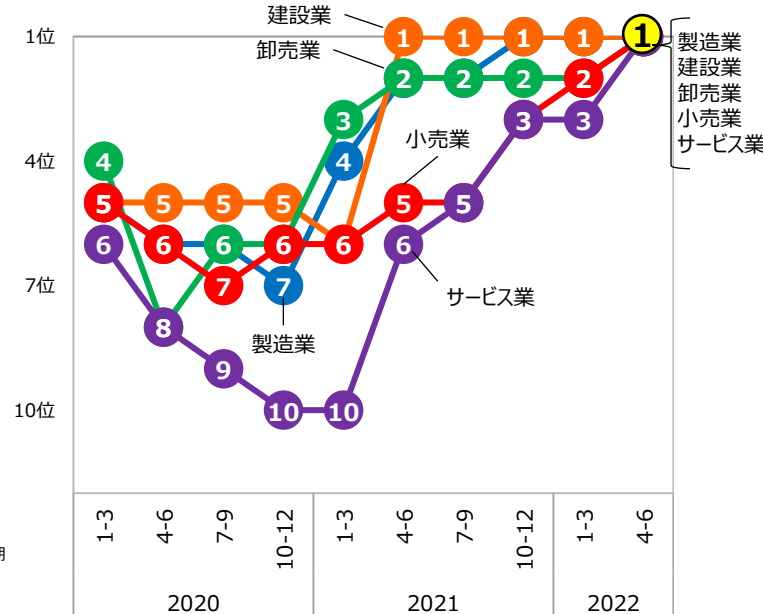
全産業の「原材料・商品仕入単価DI」は、前期より12.6ポイント増の67.4と、コロナ禍の2020年4-6月期を底に8期連続して上昇した。産業別では製造業、建設業、卸売業で過去最高値となった。今期は「経営上の問題点」でもすべての産業で「原材料・仕入価格の上昇」を1位に挙げる企業が最多で、フリーコメントでは、原材料価格の高騰と価格転嫁の難しさを懸念する声が多く寄せられた。

原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）



※前年同期（2021年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で回答。

経営上の問題点「原材料・仕入価格の上昇」回答順位

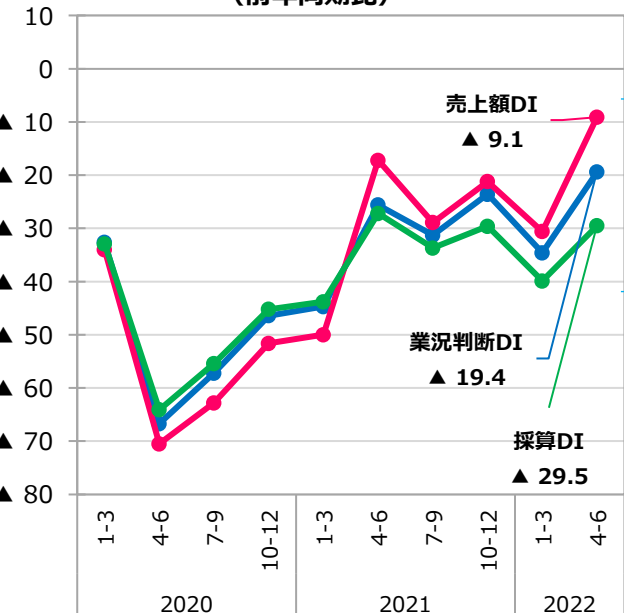


※今期直面する「経営上の問題点」について産業別に13~16の項目から1~3位を回答。

宿泊業の業況判断DI及び売上額DIは、過去最大の上げ幅

全産業の「業況判断DI/売上額DI/採算DI（前年同期比）」は、いずれも上昇した。37業種の中で、宿泊業が最も上昇した。

全産業の業況判断DI/売上額DI/採算DIの推移（前年同期比）



売上額DI（前年同期比）2022年4-6月期 上げ幅



業況判断DI（前年同期比）2022年4-6月期 上げ幅



採算DI（前年同期比）2022年4-6月期 上げ幅



【製造業】

【建設業】

◆為替が円安傾向のため、原材料価格はかなりコスト高となっている。住宅価格も高くなっており、新築需要もこれから停滞するだろう。製品価格もかなり高い状態のため、価格転嫁は、いっそう厳しくなる。（一般製材業）

◆原油・ナフサの急激な高騰により、仕入価格の大幅な上昇となっている。原材料の不足も重なり、経営に大きなダメージを与えている。半導体関連の受注は好調だが価格転嫁出来ていないため収支悪化。来月より値上する。（他に分類されないプラスチック製品加工業）

◆細かい仕事が増えつつある中、材料価格の上昇や入手難から見積り時より全体の金額が増加するも、請求時に割増の請求が出来ない状況がある。（一般電気工事業）
◆材料価格の上昇が著しく、全体的な工事の需要が減少しているのに加え、材料価格の上昇分を請負単価に十分に転嫁することが出来ず採算が悪化。一方で人件費の上昇傾向は続いており、収益低下に拍車をかけている。（板金工事業）

【調査要領】

- 調査時点 2022年6月1日時点
 - 調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,853、有効回答企業数18,137、有効回答率96.2%）
 - 自由回答数 4,294件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」p.79-80に掲載）
- ※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

◆まん延防止等重点措置の緩和及び新型コロナワクチン接種の進展等から、対前期比では改善傾向にある。しかし一方で、仕入単価の相次ぐ上昇から、販売単価への転嫁が追いついておらず、収益難の状況が大いに懸念される。（米麦卸売業）

◆仕入単価が1年半の間に1.5倍上昇しているが、売値を上げきれていないので利益は下がっている。顧客も値上げに敏感になっており、販売価格も上げづらい状況にある。（燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)）

◆原材料の高騰で原価率が大きく上がったものもあり、安易な値上げもできないため、値上げ幅、タイミングに苦慮している。（食堂、レストラン）
◆イベント等の開催が復活しつつあり、また自粛のムードが薄くなってきているため、リピーターの方やツアーが戻りつつある。しかし、物価上昇により、収益が好転しにくい現状である。（旅館、ホテル）